

伝統の技と最新の術



主な業務内容

海上自衛隊の防衛技官は、行政職と研究職があり、領海を守る海上自衛隊の艦船、航空機、施設などの装備品について、整備・調達・能力分析等の後方分野で広く関わっています。そこには、職員同士の連携のほか、伝統の技と最新の術（方法）を取り入れ、日本の防衛力を支えています。行政職は4つの職種（艦船、艦船武器、航空機、施設）、研究職は3つの職種（能力分析系、海洋音響系・情報セキュリティ系）のいずれかのスペシャリストとしての役割を担っています。

技術職員から一言

（男性職員）入省7年目
採用区分：一般職（高卒程度）
技術（機械系）

整備の知識はありませんでしたが、整備の現場としっかり連携し、たくさんのデスクワークを経験することで、幅広い経験・知識を身につけ、防衛予算の要求に関する業務を担えるまでに成長しました。

（女性職員）入省7年目
採用区分：一般職（高卒程度）
技術（電気・情報系）

現場での仕事が多いわけではなく、デスクワークがメインです。装備品の調達や整備計画、検査などの業務を行い、最新の装備品に触れられる魅力があります。

アピールポイント

知識、経験が0からプロになれる！
新造艦の建造の担当になれる！
ヘリコプターを組み上げられる！

海上自衛隊では、教育・研究やOJTによる人材育成に力を入れており、未経験から専門知識を習得できます。

